



# 豪州の政策金利引き下げについて

## ポイント① 政策金利を1.75%に引き下げ

5月3日、豪州準備銀行（中央銀行）は金融政策決定会合において、政策金利であるオフィシャル・キャッシングレートを0.25%引き下げ、1.75%とすることを決定しました。一部の市場参加者は今回の利下げを予想していたものの、大半は据え置きを予想していたため、今回の決定は市場で驚きをもって受け止められました。利下げは1年ぶりとなります。

## ポイント② インフレ見通しの低下に対応

今回の決定の背景には、豪ドル高などを受けてインフレ圧力が想定よりも低下していることがあります。

1-3月期のインフレ率は1.3%と市場予想を下回ったほか、同中銀のインフレ目標の2-3%を下回って推移しています。同中銀は金融政策決定会合後の声明において、インフレ率はしばらくの間極めて低水準にあり、最近のデータは予想外に低水準だとしています。また、労働コストの伸びが抑制されていることや、コスト上昇圧力が世界各地で非常に低いことなどが、インフレ見通しが従来の予想よりも低下することを示していると説明しています。

また同中銀は、豪ドル高が同国経済の鉱業への依存からの脱却を難しくしかねないとの見方を示しており、足元の豪ドルの上昇を警戒していることがうかがえます。

このような状況のもと、同中銀はインフレ率を目標レンジに戻し、経済を持続的に成長させるため、今回の利下げを決定しました。

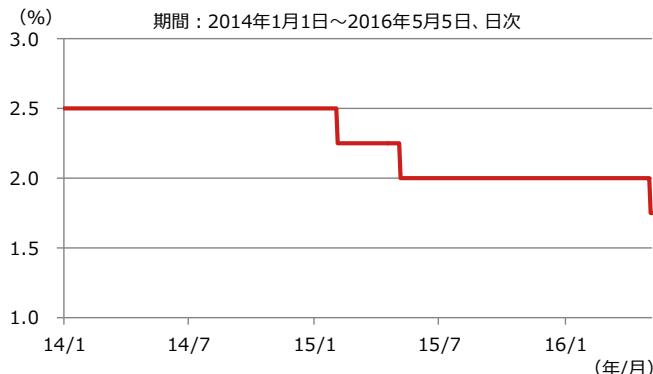
## ポイント③ 豪ドルは下落

5月3日の豪ドルレートは、対米ドルで前日比0.9%程度、対円で同1.6%程度の豪ドル安となりました。予想外の利下げ発表を受け、豪ドルは急落する格好となりました。

### 重要イベント

- 5月31日 経常収支（1-3月期）
- 6月1日 GDP（国内総生産、1-3月期）
- 6月7日 金融政策発表

### 図1：政策金利の推移



### 図2：消費者物価指数（前年同期比）の推移



### 図3：為替レートの推移



（出所）ブルームバーグデータより野村アセットマネジメント作成